

わがまち・ふるさと再発見!

「身近な史跡めぐり」

99 金子市之丞 2
歌舞伎

案内役 田村哲三



金子市之丞の墓
(流山本町・間魔堂)

前号で紹介した講談をもとに、江戸時代幕末から明治にかけて活躍した歌舞伎狂言作者の河竹黙阿弥が書いたのが、歌舞伎「天衣紛上野初花」です。以下、市之丞のかかわる場面を紹介します。

天保初年の暮、新陰流免許皆伝の剣術指南の金子市之丞は、奉納試合を行うため、湯島天神境内に小屋掛けをしました。そこにヤクザの暗闘の丑松が難癖をつけ、門弟といさか



いけんなり、河内山宗俊が仲裁をしました。場面は変わり、吉原大口楼の三千歳は、恋人の片岡直次郎の無心に借金までしていましたが、返済できずに困っ

ていました。そこに市之丞が現れ、三千歳の身請けを言い出します。恋人がいるからと断る三千歳に、直次郎の悪行を並べ立て、それなら貸した百両を返せと迫ります。それを聞いた丑松は、兄貴分の直次郎がコケにされては黙ってられないと打ち掛かりますが、逆にキセルで打ち据えられてしまい、結局、直次郎が来て市之丞に百両を返しましたが、その金は河内山宗俊から出ていました。

直次郎も強請り騙りなどの悪事が露見し、役人に追われ、甲州路に逃

げようと入谷村まで来ましたが、ソバ屋で按摩から三千歳が直次郎に会えないことで病に伏せ、大口楼の寮で静養していると聞きます。直次郎は三千歳に会い、自分の悪行や役人に追われていることを話し、夫婦約束を反故にしたいと言い出します。それなら直次郎の手にかかって死にたいと言う三千歳。そこに市之丞が現れ、三千歳の父、藤五郎の許しを得て三千歳を身請けしてきたと言

います。直次郎は、身請けされた以上、自分は間男、市之丞にバツサリ切ってくれと言ひ、三千歳もあの世で添い遂げるから一緒に切ってくれと懇願します。市

シラシラの子

之丞は懐から、年季証文とへその緒書きを取り出し「天下の仕置きを受けて死ぬ」と二人に投げ捨て、その場を去って行きま

す。それを拾った三千歳は、へその緒書きにあった「父、藤五郎、兄、市之丞」の名を見て、母から聞いていた異母兄は市之丞であったと気が付きます。市之丞が三千歳に執心で身請けをしようとしていたのは、妹を遊女から堅気に戻し、直次郎と添い遂げさせようとする思いからでありました。二人は市之丞の情けに感謝するが、丑松の裏切りで役人に囲まれてしまいます。

金子市之丞にかかわる伝説、講談、歌舞伎は、内容に違いがあります。